

ゆい 結 ながれやま



男女共同参画を啓発する『結』です。
結とは・・・昔、農村の人々は手を貸しあうことを「結」と呼びました。また友達や友愛を意味する言葉でもあります。

vol.19
2021.3



私らしく あなたらしく



特集 流山のパパたち

流山で、積極的に子育てに参加するパパたちに注目しました！

「面白い」でつながる子育ての輪 パパレヤマ

子どもの保育園や小学校PTAでつながりのあった相澤祐一さん、松岡剛広さん、須賀慶さんの「いろいろなスキルのあるパパたちとつながる場所がほしい」という思いから生まれた「パパレヤマ」。面白いことをゆるく続ける、という取り組みについて、今回は3人を代表して相澤さんにお話を聞きました。



相澤祐一さん 松岡剛広さん 須賀慶さん

男女共同参画の視点からお考えをお聞かせください。地域活動やPTAでは、専業主婦やパートのお母さんとお話する機会が多いのですが、地域活動は男女共同参画が進んでいないと感じています。日本の女性は母親になるとキャリアの選択肢が少なくなります。半強制的に地域活動をさせられるお母さんたちにとって、相当のストレスではないかと思っています。そこで、「他に参加するお父さんがいれば…」と二の足を踏んでいるお父さんたちを巻き込み、地域活動の意味・捉え方を変えていき、お母さんたちの心理的負担を少しでも減らせるようにできたらうれしいです。

パパレヤマの今後の展望はありますか？

コロナ禍がしばらく続くことを考えると、オンラインで雑談したり、人を集めてもごく小規模に限定してコツコツと続けていきます。一方で、コロナ禍によって子どもたちや学校の先生のストレスがすごく重い問題になっていると感じています。そこで、様々なスキルのあるお父さんたちが、型にはまった教科書とは違う面白い学びの形を子どもたちと創り上げる活動もやっていきたいです！

パパレヤマを始めてから気持ちに変化はありますか？始める前は「地域活動＝すごく準備が大変。面白いコンテンツを作り続けなければいけない」というプレッシャーが大きかったです。ただ、実際に始めてみると、平日も土日もサラリーマンはそんなに時間が取れないので、少しでもできることを長くやるのが大事だと感じるようになりました。

コロナ禍による影響はありましたか？

コロナの影響で人を物理的に集められないので、体を動かすイベントなどがやりづらさを感じています。その一方で、コミュニケーションの在り方など共通の話題は増えました。「テレワークどうしてる？」という会話や、「オンラインミーティングが持つコンテンツ性について」など、新しい視点や踏み込んだ内容で盛り上がりつつあります。



パパスクール2020

パパの手で作る赤ちゃんのハッピータイム

11/15・29・12/6 @流山エルズ

男性の子育てスキルアップのための講座「パパスクール」。今年は3日間にわたり、行われました。1日目は子育てコーディネーターの古澤里美さんを講師に迎え、「パパ・ママと話そう！子育ての極意」、2日目は、(一社)日本ベビーダンス協会代表理事・田中由美子さんによるベビーダンス、3日目はNPO法人えほんうた・あそびうた代表・西村直人さんと、のこぎり演奏を中心に活動している西村直晃さんによるミニクリスマス会でした。今回は、11月29日のベビーダンス講座を詳しくレポートします。

パパたちと赤ちゃんは、歌に合わせた自己紹介や手遊び、ストレッチで準備をしてレッスンへ。音楽に合わせて繰り返しステップ。赤ちゃんを抱っこしているですぐに体も温まります。ステップをマスターして素敵なダンスを見てもらおうと一致団結する場面もありました。その間、ママたちは情報交換会で、性別役割意識に基づく日常生活でのちやもやなどを共有し、性別にとらわれず個性を生かす子育てをしたい、といった思いを語り合いました。

約一時間後、いよいよお披露目です。練習を始めた時にくらべ、ステップも大きくなり、笑顔でベビーダンス！赤ちゃんたちはゆらゆら気持ちよさそう。眠ってしまった子どもも多く見られました。決めポーズでダンスは終了。頑張ったパパたちへ惜しみない拍手が送られました。

「自分のパートナー以外の方々からの意見を聞いてよかった」「この講座を通じてパパ友ができた」と、皆さん充実した時間を過ごせたようです。テレワーク中のあるパパは、「出勤は週1度なので、赤ちゃんの食事、おしめ交換は私が担当です」と頼もしい一言。パパの子育ての輪の広がりを感じました。



流山でがんばる人見つけた！

令和2年文化の日千葉県功労者表彰

流山市の男女共同参画をけん引し続けたこれまでの活動を振り返っていただきました。

NPO法人パートナーシップながれやま 代表理事 山口 文代さん



男女共同参画の活動のきっかけを教えてください。公務員時代、松戸市女性センターゆうまつどの立上げに携わり、多くの方から学んだことです。

「パートナーシップながれやま」が2011年に法人化して約10年間の活動の中で何か変化を感じますか？「男女共同参画」という言葉が認知されてきたと思います。また、講座の修了生が、役所の審議会委員や、いくつもの自主グループを立ち上げ、まちのリーダーとして活躍されている姿を見て、うれしく思います。

今後の抱負について教えてください。DVの被害者支援の活動にもっと力を注ぎたいです。コロナ禍というある種の災害の中で社会的弱者に負担のしわ寄せが集まっています。非正規やシングルマザーの就労、また、女性への家事負担の集中など「男女共同参画社会になっていけば…」と思う問題が顕著になっています。その中でDVや児童虐待の問題はぜひなくしたいです。社会全体も真摯に向き合っていかなければならないと感じます。

二人で無理なく保護犬活動

犬の殺処分の実態に憤りを感じた明彦さんと、その気持ちに賛同したパートナーの真美さん。保護犬のボランティアをきっかけに、地域活動の場として平和台にシェアスペースStudio29Qをオープン。「犬に役立つお店」をコンセプトに活動を広げています。明彦さんは大学教授、真美さんは会社員として働きながら、犬好きな方が楽しめる場所を運営しています。

シェアスペース Studio29Q (スタジオニクキュウ) 菊池 明彦さん・真美さん

価値観の一致だけではない「あうんの呼吸」が感じられますが、お二人は学生時代からの付き合いとのことですね。パートナーのいい所をお聞かせください。妻はとにかく行動力があります。(明彦さん) 夫は常に備えがあり、私が勢いで行動しても安心です。(真美さん)

保護犬のボランティアを始めて変化はありましたか？特別に話し合いなどはしませんでした。元々、家事なども「できる方がやればよい」というスタンスなので、犬を病院に連れていく時など、仕事を調整する必要がある際は、自然にできる方がやっています。今まで以上に、助け合いの気持ちが生まれました。(ご夫妻)

現在の活動状況は？月に一度、第4日曜日に保護犬の譲渡会を開催、その他に不定期で犬にまつわるイベントを開催しています。お問合せはホームページ (<https://studio29q.com/>) からお願いします。

Studio29Qをオープンしてからは、気持ちの変化はありましたか？

私は、時間的余裕もあまりなかったのでシェアスペースを持つことに当初はネガティブでした。しかし、実際に始めてからは、ゆっくりではありますが、保護犬の活動だけでなく地域の人たちをつなぐ場になってきている気がします。(明彦さん)



明彦さん 真美さん

取材中も自然体で、二人三脚なお二人の雰囲気がとても素敵でした

利根運河とともに

東深井で朝市の開催(現在は休止中)や、東京理科大学学生グループとの交流など、運河の活性化に尽力している小名木さんに、活動への思いを聞きました。

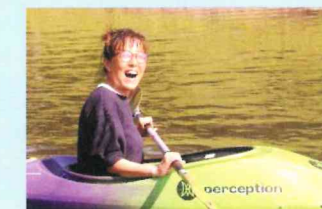
運河文化構想(カナルアーツ) 小名木 紀子さん

利根運河で地域活動を始めるきっかけは何でしたか？一番は流山市に引越してきて始めたPTA活動でした。地区委員をはじめ、卒業後も青少年指導員などを務めたことで地域がよく見えるようになり、交流も増えていきました。その後始めた地域紙編集の仕事と地域活動が一体となり、朝市もこうした人脈を活かして立ち上げました。

今後の地域活動について、展望をお聞かせください。若く、積極的な力が地域活動にかかわると、勢いがつきます。そこに、地域や運河の歴史を知る年長者の意見を取り入れると、もっとよい活動になると思います。たびたび仲介役をしています。悩むこともありますが、今後は、運河文化構想で、和船の運行などに取り組んでみたいと思っています。

現在はどのような地域活動をされていますか。「利根運河シアターナイト」を企画・実行していた東京理科大学学生たちから声掛けがあり、共に、「運河文化構想(カナルアーツ)」を立ち上げました。現在は、シアターナイトアドバイザーとして主に広報に携わっています。

インタビューを通じて経験、いろいろな人とのご縁、家族の理解など、女性が地域で活躍するヒントをたくさんいただきました。



12/6 @流山エルズ パートナーシップフェスタ2020

男女共同参画の視点に立ったイベントやワークショップが開催されました。

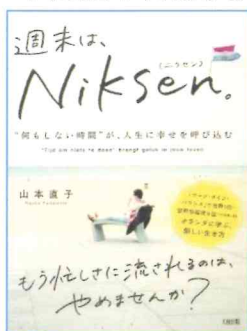


「結ながれやま」もブースを出し、編集員も参加しました。バックナンバーや、三條編集員のイラストが描かれた手作りのしおりを来場者に手に取ってもらいました。そして、今年も玉置編集員手作りのピタゴラ装置が人気を集めました。子どもたちは装置の中を転がるビー玉に興味津々。会場に用意された材料を使って、自分でコースを作ってみたり、床に並べてドミノを作ってみたり、思い思いに遊んでいました。

工作が好きで、ピタゴラ装置を楽しみに来たという女の子は、小さい妹がいて、なかなかママと2人きりの時間が過ごせないけれど、この日はパパが妹とお留守番をしてくれたそうです。ピタゴラ装置で仲良くなったお友達や、ママと一緒に、熱心に材料の組み合わせを考えていました。ピタゴラ装置以外にヨガやクリスマスオーナメント作りといったワークショップや、男女共同参画の視点から家庭防災を考える展示がありました。

編集員おすすめ図書

『週末は、Niksen（ニクセン）。“何もしない時間”が、人生に幸せを呼び込む』



著：山本 直子
大和出版

ニクセンとはオランダ語で「何もしない」という意味。オランダ流の「何もしない」の実例がたくさん書いてありヒントになります。

『1は赤い。そして世界は緑と青でできている』



著：望月 菜南子
飛鳥新社

数字にはすべて色が見えるという共感覚の持ち主の苦労話。当たり前はすべての人に当たり前だろうか？多様性の時代を考えよう。

『世界は女性が変わってきた 夢をつないだ84人の勇者たち』



著：ケイト・ホッズス
絵：サラ・パップワース
翻訳：西川 知佐
東京書籍

知られざる女性の活躍は多い。重要な活躍をしてきた女性をつながりをもとに紹介。イラストが多くあり読みやすい。

知っていますか？

パープルリボン オレンジリボン

パープルリボンは女性に対する暴力根絶の象徴です。「女性に対する暴力をなくす運動」期間の11月22日～25日には、リボンの色にちなみ、全国のランドマークタワー等で「パープル・ライトアップ」が行われています。

児童虐待防止の啓発シンボルであるオレンジリボンと組み合わせた「W（ダブル）リボン」。虐待やDVを許さない社会を目指しています。

※W（ダブル）リボンマークの使用に関する権限は大阪府枚田市に帰属します。



女性の生き方相談

～ひとりで悩まずお気軽にご相談ください～

相談方法：電話相談・面談相談

相談場所：市役所市民相談室

相談時間：第1・第2・第4金曜日

10:00～16:00

（祝日・年末年始を除く）

1人1回相談（50分）※要予約

予約方法：流山市男女共同参画室に電話

または窓口でご予約ください。

予約・問い合わせ：04(7150)6091

編集後記



結ながれやまvol.19編集員

（写真左から）

- ◆ 今年度より市民編集員として参加させて頂きました。自分の住む街の様々な活動を見聞きし触れることができたこと、また男女共同参画について考える機会ができたこと、大きな学びとなりました。（村岡 千恵）
- ◆ 流山でがんばる人をもっともっと見つけたいと思います。皆がんばっています！（柳橋 和郎）
- ◆ 今年度はコロナ禍に翻弄されたなかでの編集となりました。集まることさえ難しいなか、対応してくださった皆様に感謝します。（三條 栄子）
- ◆ 今回は表紙の原案とパパラヤマの取材を担当しました。またパートナーシップフェスタ2020にてピタゴラ装置を展出し楽しく活動できました。ありがとうございます。（玉置 亮達）
- ◆ 今年度の編集員は私事でお休みする予定でしたが、コロナ禍の予定変更で2年連続参加になりました。制限のある日々で結ながれやま編集を通し、やりたいことが明確になりました。（大久保 誕子）